



ことばの教室だより

白岡市立篠津小学校

平成30年12月号



白岡市教育委員会
0480-92-1111 (代表)
篠津小学校ことばの教室
0480-91-0017 (直通)

一陽来復

冬至は「一陽来復」といい、上昇運に転じる日とされています。「一陽来復」は、凶のあと吉にむかうこと、冬が去って春が来るという意味があるので、冬至や新年によく使うことばです。そして、柚子は実るまでに長い年月がかかるので、苦労が実りますようにという願いが込められています。柚子湯に入りながら「一陽来復」と唱えるとさらによいので、親子一緒にバスタイムで幸せを呼び込みましょう。



「子どもの話を聴くときは」 (兵庫県教育委員会 防災マニュアルに基づいて)

文：篠原久美子

1. 子どもの声を聴くときは、教えてもらう気持ちでね
一生懸命、耳傾けて、教えてもらおう、子どもの世界
子どもの世界の扉はね、内側からしか開かないの
信じるおとなに向かってね
2. 子どもの話を聴くときは、じっくり、ゆっくり、ゆったりね
言おうと思うと時間切れ、中途半端は苦しいよ
子どものつらさと言葉はね、外に出るまで時間がいるの
待ってる時間も、聴いてる時間
3. 子どもの話を聴くときは、「聴いてるサイン」を伝えてね
あいづちうって、うなづいて、子どもの言葉を繰り返して
不安な気持ちの子どもはね、小さな合図で安心するの
「ぼくを分かってくれてるな」って
4. 子どもの話を聴くときは、途中で止めたりしないでね
批判をしたりまとめたり、言い聞かせないでただ聴いて
おとなが口を開くとね、子どもの口が閉じてくよ
知りたいのなら、耳、開こう
5. 子どもの話を聴くときは、瞳のサインをみていてね
子どもはたいていおとなのね、目なんか見ては話せない
それでも分かってほしいとき、瞳で合図を送ってる
見逃さないで、みていてね
6. 子どもの話を聴くときは、顔の高さを合わせてね
上から見下ろされるとね、だれでもちょっと堅くなる
視線の低い子どもにね、しゃがんで視点を合わせてね
子どもが話しやすいから
7. 子どもの話に答えるときは、声の調子を同じにね
大きな声や高い声、おとなのいろいろ伝わるよ
子どもは意味を知らなくてもね、声で気持ちが分かるんだ
言葉が出にくくなっちゃうよ
8. 子どもの不安を聴くときは、子どもの気持ちを感じてね
「なぜ?」「どうして?」が、問いつめに感じてしまうとき、あるの
子どもの心配、不安はね、「不安なの?」って繰り返してね
答えは、一緒に考えて
9. 子どもの不安を聴くときは、すぐに原因、決めないで
「地震のせいだ」「性格だ」、決めてもそれは答えじゃないの
子どもを取り巻く世界もね、子どもの心も単純じゃない
広く大きな視野で見て
10. 子どもの悩みを聴くときは、子どもの力を信じてね
しっかり聴いて、じっくり支え、色んな見かたのアドバイス
だけど最後は子どもがね、子ども自身で解決するの
おとなが信じた子どもはね、乗り越えられるよ、大丈夫



これは、阪神淡路大震災の後に兵庫県の教育委員会が作った10項目を、劇作家の篠原久美子さんが詩にしたものだそうです。震災で被害を受けた子どもたちの心のケアをするには、どんな風に話を聴いたらいいのかが書かれています。

この詩を読んで我が身を振り返り、いかに自分が「聴いているつもり」だったかということに気づきました。

先日参加した講演会では、「子どもから話を聞き出した時、尋問になっていないか?」と問われました。コミュニケーションは双方で成り立つものであり、おとなの側がどれだけ心を開いているか? 真剣に聴いているか? が大切であるという話もありました。

この詩の内容は、子どもと接する大人が日頃から大切にしなければならないこと、でもつい忘れてしまいがちなことがたくさんつまっていると思います。いつも全てこの通りにすることが難しいけれど、心に留めて子どもと接していけるとよいと思います。

冬休み、いつもよりちょっと余裕のある時間を利用して、子どもの話をじっくり聴いてみませんか。

